

平成28年4月11日(月) 利根川水系渇水対策連絡協議会 (事務局:関東地方整備局)

記者発表資料

平成28年度 第 1 回 利 根 川 水 系 渇 水 対 策 連 絡 協 議 会 幹事会(春季定例会)の開催結果について

1. 開催状況

日時:平成28年4月8日(金) 14:00~

場所:さいたま新都心合同庁舎 検査棟7階 共用会議室2

協議会構成:国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、

農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、

群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構

協議会の目的:利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。

2. 開催結果

別紙のとおり

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、 東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、 栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会

問い合わせが	C
--------	---

国土交通省

関東地方整備局 河川部

河川環境課

河川環境課長 伊藤 和彦 (内線) 3651 建設専門庁 デザー・

斎藤 充則 (内線) 3652 建設専門官

水政課

ままた ひろのり 太田 **浩徳(内線)3515** 水政調整官 石田 武史 (内線) 3551 水政課長 山本 課長補佐 典 (内線) 3557 住所 〒330-9724

埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館

電話 (代表) 048-601-3151

現状と今後の対応

(1) 現状

- ・降水量(栗橋地点上流域平均)の状況
 - 1月の累加降水量は69mm(平均値に対する割合161%)
 - 2月の累加降水量は36mm(平均値に対する割合74%)
 - 3月の累加降水量は57mm(平均値に対する割合85%)
 - 4月6日までの累加降水量は9mm (4月の累加降水量の平均値は90mm)
- ・積雪の状況(4月7日9時現在)

藤原ダム地点 積雪深0cm

尾瀬沼地点 積雪深98cm(平均値に対する割合44%)

利根川上流8ダムの貯水状況(4月7日0時現在)

貯水量は平年を上回る貯水量となっています。

貯水量3億9,408万m3、貯水率85%、平均値に対する割合138%

(2) 今後の見通し

- 気象庁発表の気象情報(3ヶ月予報)によると、4月の降水量は「平年並」または「多い」、5月は「平年並」、6月は「多い」となっています。
- ・ 利根川上流5ダム(矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、薗原)は、これまで融雪水の貯留に努め、ほぼ満水となっており、今後の降雨と融雪水により、満水状態が続く見込みですが、今年は、ダムの水源地となる山岳部で平年を下回る積雪であるため、例年より融雪量が少ないと見込まれることから、ダムの補給が早まることも予測されます。

また、下久保ダム、草木ダムは、融雪水がほとんどなく、融雪水により満水になることは期待できません。

更に、今後は水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも考えられます。

・鬼怒川上流4ダムの貯水量は平年を上回る貯水量となっており、今後下流の農業用水等水需要に対して必要な水量を確保するためダムからの補給を行っていきますが、降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

(3) 今後の対応

・利根川上流8ダム、鬼怒川上流4ダム等は、本年の利根川上流域の融雪状況や降雨、 農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、下流施設等を広域的かつ効果的に活用 し、きめ細かい運用を行っていきます。

また、上流ダム群の貯水量の状況や積雪及び降水量の状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

・利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水 の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的 な対応を行っていきます。

平成28年度 第1回利根川水系渴水対策 連絡協議会幹事会(春季定例会)資料

利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



矢木沢ダム上流部 (平成28年4月1日撮影)

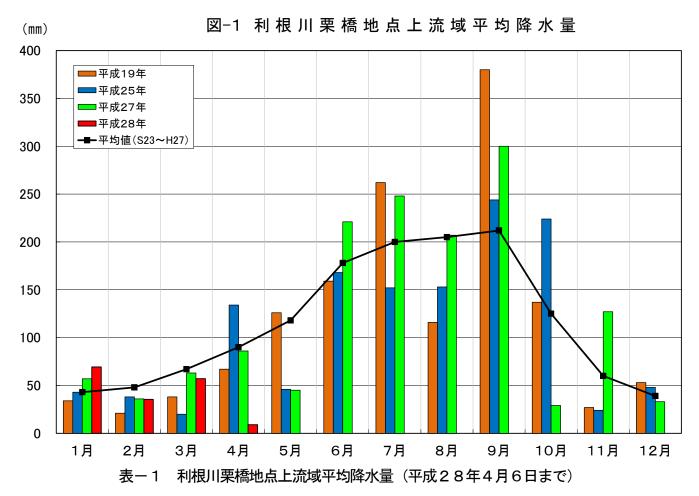
平成28年4月8日

関東地方整備局

1. 利根川上流8ダム等の現状

1) 利根川

(1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況(平成28年4月6日までの降水量) 平成27年10月以降の栗橋地点上流域平均降水量は、10月及び12月が平均値を下回りました。 平成28年に入り、1月は平均値を上回りましたが、2月、3月は平均値を下回りました。 4月の降水量は、6日までの累加で9mmとなっています。(4月の降水量の平均値は90mm) (図-1、表-1)



単位 (mm) 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 合計 摘 要 昭和62年 1,091 利根川夏渇水 平成2年 1,413 平成6年 1, 143 平成8年 利根川冬夏渇水 平成9年 1, 222 利根川冬渇水 平成13年 1,569 利根川夏渇水 平成19年 (少雪年) 1.420 平成24年 1, 395 利根川夏渇水 平成25年 1, 294 平成27年 1.452 平均值 1.385 (S23-H27) 平成28年 平均値に対す る割合(%)

^{※.} 利根川取水制限実施月(一時緩和含む)

^{※.} 栗橋上流域面積 8,588km²

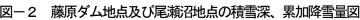
(2) 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪状況

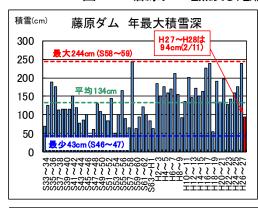
藤原ダム地点は11月25日に初冠雪となりましたが、積雪深は平均値を下回ったまま推移し、3月15日に消 雪しました。また、尾瀬沼地点は、11月25日初冠雪となりましたが、藤原ダムと同様に積雪深は平均値を下回 ったまま推移しています。

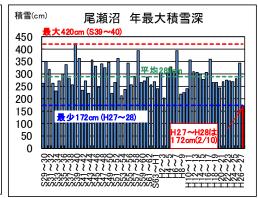
今期の最大積雪深は藤原ダム地点で94cm(2月11日)、尾瀬沼地点で172cm(2月10日)となっていま す。平成28年4月7日9時現在、尾瀬沼地点の積雪深は、98cm(平均値に対する割合は44%)となっていま す。(表-2、図-2参照)

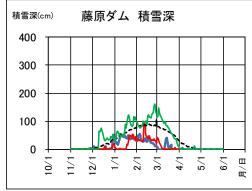
衣 Z											
観測所名	時 点	積雪深	今期最大積雪深	累加降雪量							
藤原ダム	平成28年4月7日9時現在	O cm	94cm(2月11日)	340 cm							
(標高 667m)	S34~H27 の 4 月第 2 半旬末平均値	12 cm		740cm							
尾瀬沼	平成28年4月7日9時現在	98 cm	172cm(2 月 10 日)	887 cm							
(標高 1666m)	S30~H27 の 4 月第 2 半旬末平均値	225 cm		1,394 cm							
	図一2 藤頂ダム地占及が尾瀬辺地	占の精重	空 思加修重量図								

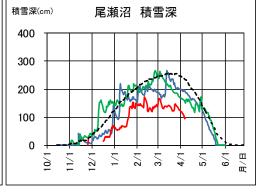
表一2 藤原ダ人地占及が尾瀬沼地占の積重深 累加修電量図

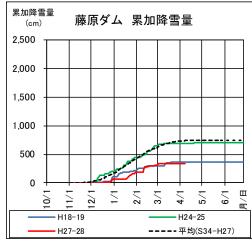


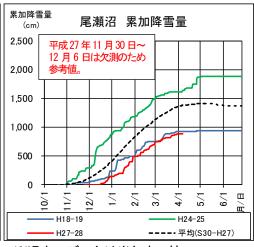












平成28年4月7日9時現在 ※過去のデータは半旬末の値

(3) 各観測所の積雪深の状況

奥利根の積雪深は、標高の低い観測所では、 消雪となっています。標高の高い観測所では 平均値の2割~8割の積雪となっています。 (図-3、図-4参照)

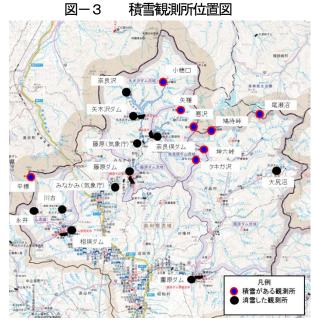
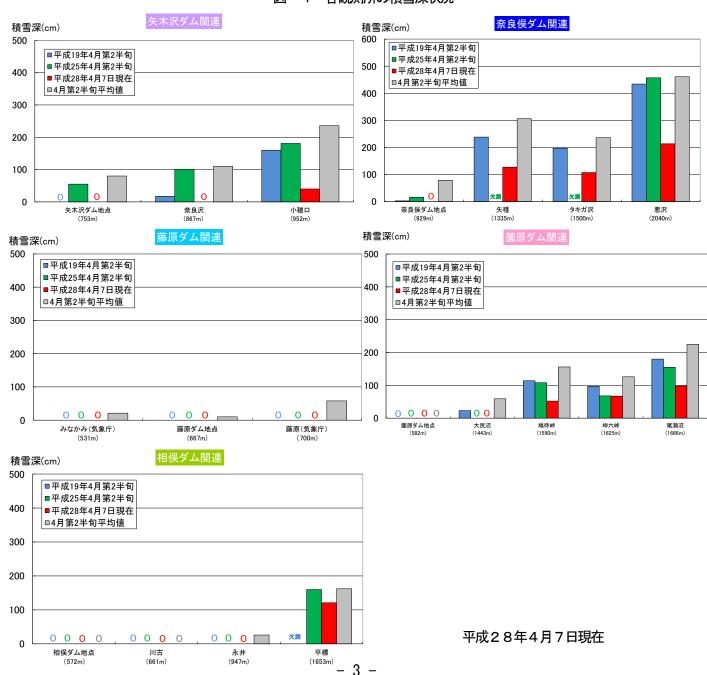


図-4 各観測所の積雪深状況



(4) 利根川上流8ダムの貯水状況等(平成28年4月7日0時現在)

平成27年10月以降の利根川上流8ダムは、貯留と補給を繰り返し、12月20日に3億9,492万m3に達しました。その後、降雨が少ない状況が続き、河川流量が減少した時に、水道用水、工業用水等を確保するため、利根川上流8ダムに貯留した水を補給しました。2月15日には3億2,716万m3まで、低下しました。2月からは、少雪傾向から下流施設を活用することとして北千葉導水路の運用を開始し、その後は降雨及び融雪により、貯留となりました。

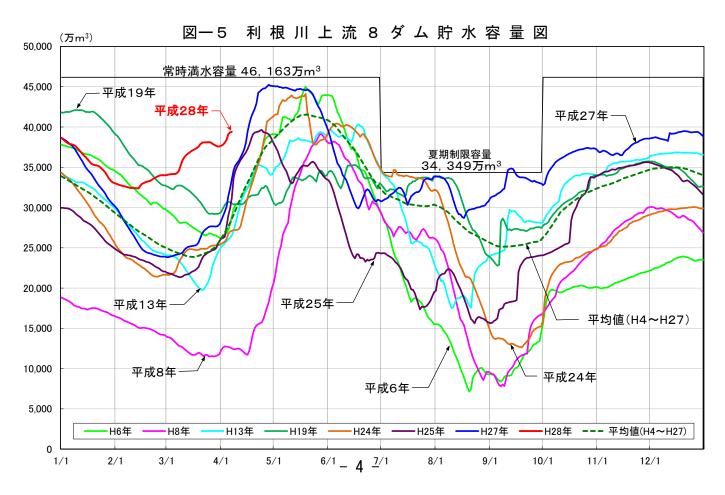
平成28年4月7日0時の貯水量は3億9, 408万 m3、貯水率は85%(貯水量の平均値(平成4年~平成27年)に対する割合は138%)です。

(表一3、図一5)

表一3 利根川上流8ダム貯水量 平成28年4月7日 〇時刊会

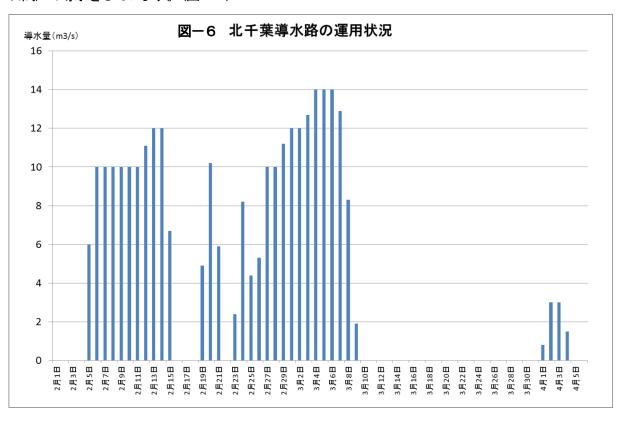
		+ /-	<u>以 </u>	/日0時現任
ダム名	有 効 容 量 (万m³)	貯水量 (万m³)	貯 水 率 (%)	前日補給量 (万m³/日)
	(11117)	(7)111/		(Z)III/ LI/
矢木沢ダム	11, 550	11, 439	99	-48
奈良俣ダム	8, 500	8, 451	99	23
藤原ダム	3, 101	2, 920	9 4	-3
相俣ダム	2, 000	1, 931	97	4
薗原ダム	1, 322	1, 161	88	22
下久保ダム	12, 000	9, 463	7 9	-5
草木ダム	5, 050	3, 612	7 2	-26
渡良瀬貯水池	2, 640	431	16	-46
8 ダム合計	46, 163	39, 408	85	-79
	計の平均値 ~平成27年)	28, 550		に対する割合 3 8%)

- 1. 有効容量は、常時満水容量。
- 2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
- 3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。)



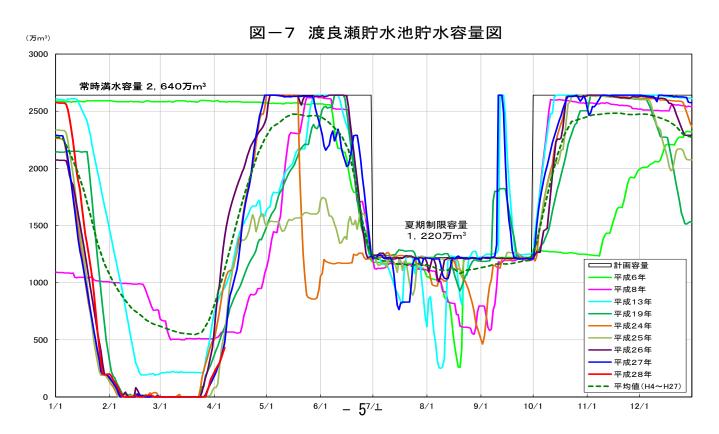
(5) 北千葉導水路の活用状況

北千葉導水路は2月5日より、運用を開始し、4月6日までに最大14m3/s、総量約2,500万m3(34日間)の導水をしています。(図-6)



(6) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。今年も1月6日より補給も兼ねつつ水位を下げ、干し上げを実施しました。その後、3月25日より貯留し、平成28年4月7日0時現在の貯水量は、431万 m3、貯水率は16%(貯水量の平均値(平成4年~平成27年)に対する割合は39%)です。(図-7)



(7) 今後のダム貯水量推移の予測

水運用の見通しとなり得るようなダム貯水量の長期的な予測には、精度の良い気象予報が必要となりますが、 現状でそれを得るのは困難なことから、過去の類似年等を元に今後の貯水量の推移を予測しました。 気象庁の今後の1ヶ月予報及び3ヶ月予報によれば、降水量は「平年並み」又は「多い」とされています。この 予報と、少雪を条件として、次の2パターンを設定しました。

●平成 19 年パターン

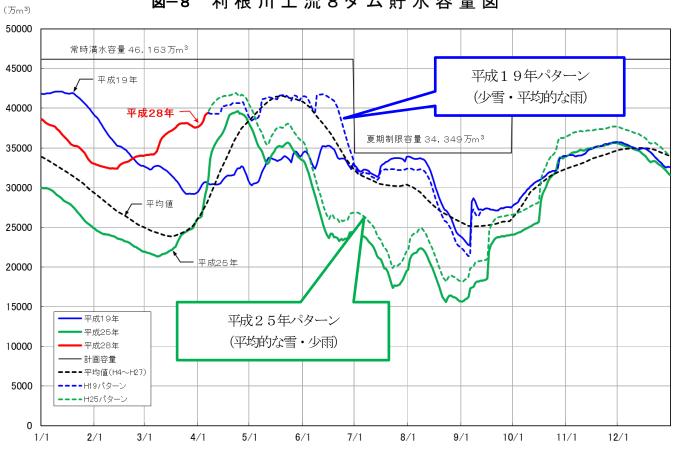
: 少雪 (藤原ダム累加降雪量が58ヶ年中の2位) + 5~6月が平均的な降水量

●平成 25 年パターン

: 平均的な雪 (藤原ダム累加降雪量が58ヶ年中の27位) + 少雨 (5~6月の降水量が平均の72%)

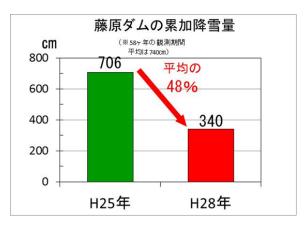
予測の方法

- 4月7日の実績貯水量を計算スタートとする
- ・ダムへの流入量、河川流量、ダム補給量は、平成19年、25年の実績を使用



利根川上流8ダム貯水容量図

◎気象庁の長期予報に反して降雨が少ない状況になった 場合には、利根川において取水制限を実施した平成 25年よりも、降雪量が少ない分だけ更に厳しい水運用 になることも予想されます。



2) 鬼怒川

(1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況(平成28年4月6日までの降水量) 平成27年10月以降の佐貫地点上流域平均降水量は、10月が平均値を下回りました。 平成28年に入り、1月は平均値を上回りましたが、2月、3月は平均値を下回りました。 4月の降水量は、7日までの累加で10mmとなっています。(4月の降水量の平均値は104mm)

(図-9、表-5)

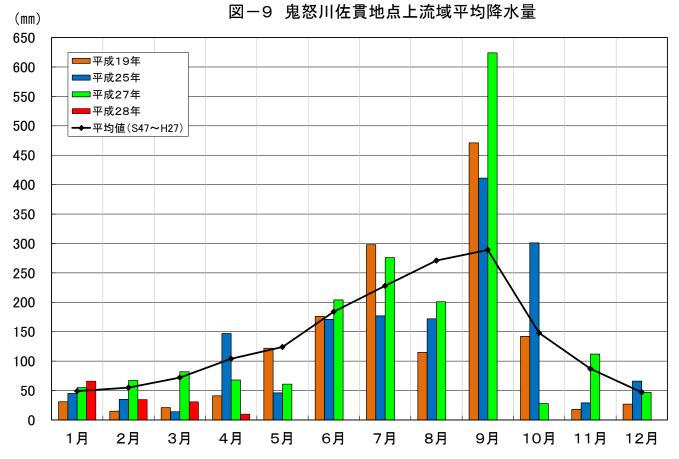


表-5 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量(平成28年4月6日まで)

単位:(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11 月	12月	合計	摘要
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301	
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853	
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583	
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140	
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525	
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980	
平成 19 年	31	15	21	41	122	176	298	115	471	142	18	27	1,477	
平成24年	40	47	101	111	314	276	227	109	354	113	71	75	1,838	
平成 25 年	45	35	14	147	46	171	177	172	411	301	29	66	1,614	
平成 27 年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825	
平均値	49	55	72	104	124	184	228	271	289	148	87	47	1,658	
(S47-H27)	73	33	72	104	124	104	220	2/1	203	140	07	47	1,000	
平成 28 年	66	35	31	10									142	
平均値に対	135	63	43	10									9	
する割合(%)	133	03	70	10									9	

※. 鬼怒川佐貫上流面積 940km2

(2) 鬼怒川上流4ダムの貯水状況等(平成28年4月7日0時現在)

平成27年10月以降の鬼怒川上流4ダムは、平均値を下回っていましたが、2月下旬に平均値を上回りました。

平成28年4月7日0時の貯水量は2億2, 874万 m3、貯水率90%(貯水量の平均値(平成25年~平成27年)に対する割合は105%)です。(表-6、図-10)

表-6 鬼怒川上流4ダム貯水量

平成28年4月7日0時現現在

		1,30= 0 1 1,31 1 0 1 3 5 5 5 5							
ダム名	有 効 容 量 (万m³)	貯 水 量 (万m³)	貯 水 率 (%)	前日補給量 (万m³/日)					
五十里ダム	3, 200	2, 141	67	-14					
川俣ダム	7, 310	7, 145	98	6					
川治ダム	7, 600	7, 421	98	-16					
湯西川ダム	7, 200	6, 167	86	-18					
4ダム合計	25, 310	22, 874	90	-42					
	計の平均値 - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	21, 694		に対する割合 0 5%)					

- 1. 有効容量は、常時満水容量。
- 2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
- 3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。)

図-10 鬼怒川上流4ダム貯水容量図 30,000^{(万<u>m³)</u>} 常時満水容量 25,310万m3 平成27年 25.000 平成28年 平成25年 20,000 一期夏期 制限容量 5,140万m 第二期夏期 制限容量 14,180万m³ 15,000 平均値(S60~H27) 10,000 平成13年— 平成6年 - 平成8年 平成13年 平成19年 5,000 平成24年 平成8年 平成24年 一平成25年 平成6年 - 平成28年 平成27年 - 平均値(H25~H27) 1/1 2/1 3/1 4/1 5/1 6/1 7/1 8/1 9/1 10/1 11/1 12/1

3) 荒川水系

(mm)

(1) 秋ヶ瀬地点上流平均降水量の状況(平成28年4月6日までの降水量)

平成27年10月以降の秋ヶ瀬地点上流域平均降水量は、10月及び12月が平均値を下回りました。 平成28年に入り、1月、2月及び3月は平均値を上回りました。

4月の降水量は、6日までの累加で10mmとなっています。(4月の降水量の平均値は96mm) (図-11、表-7)

図-11 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量

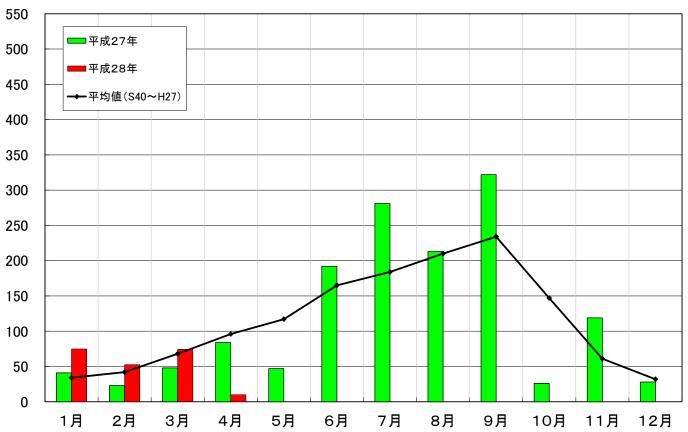


表-7 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量(平成28年4月6日まで)

単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川•荒川夏渇水
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1, 657	利根川•荒川夏渇水
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1, 355	荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1, 464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1, 191	利根川•荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1, 135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川•荒川冬夏渇水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1, 055	利根川•荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1, 657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1, 335	利根川夏渇水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1, 249	利根川夏渇水
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1, 424	
平均値 (S40-H27)	34	42	68	96	117	165	184	210	234	147	61	32	1, 390	
平成28年	75	53	74	10									212	
平均値に対する割合(%)	220	125	109	10	τ= Δ ±. \								15	

^{※.} 荒川取水制限実施月(一時緩和含む)

^{※.} 秋ヶ瀬上流域面積 2,021 km²

(2) 荒川上流4ダムの貯水状況等(平成28年4月7日0時現在)

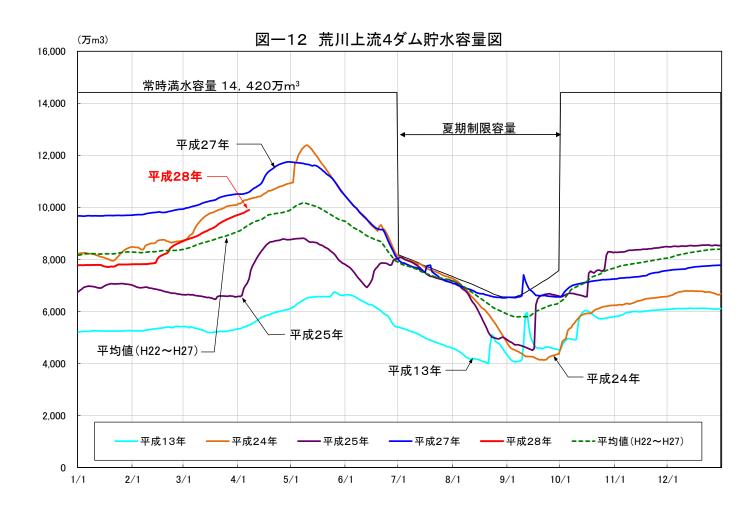
平成27年10月以降の荒川上流4ダムの貯水量は、平均値を下回っていましたが、2月下旬に平均値を上回りました。

平成28年4月7日0時の貯水量は9,896万m3、貯水率69%(貯水量の平均値(平成22年~平成27年)に対する割合は106%)です。(表-8、図-12)

表-8 荒川上流4ダム貯水量 平成28年4月7日0時現在

<u>-</u>		1774= -	1 17 1 1 1 1	. , , ,
ダム名	有効容量 (万m³)	貯水量 (万m³)	貯 水 率 (%)	前日補給量 (万m³/日)
二瀬ダム	2, 000	1, 294	65	-17
滝沢ダム	5, 800	3, 659	63	-8
浦山ダム	5, 600	3, 922	70	-2
荒川貯水池	1, 020	1,021	100	0
4ダム合計	14, 420	9,896	69	-27
	十の平均値 ~平成27年)	9, 326	(平均値に 10(対する割合 6%)

- 1. 有効容量は、常時満水容量。
- 2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
- 3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。)



4) 多摩川水系

(1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況(平成28年4月6日までの降水量) 小河内ダム地点上流域平均降水量の平成28年4月の降水量は、6日までの累加で14mmとなっています。

(4月の降水量の平均値は111mm)(図-13、表-9)

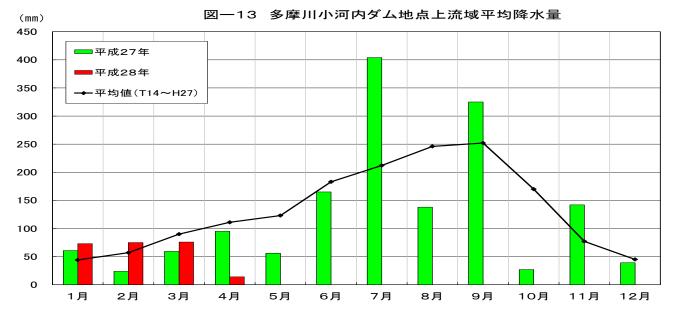
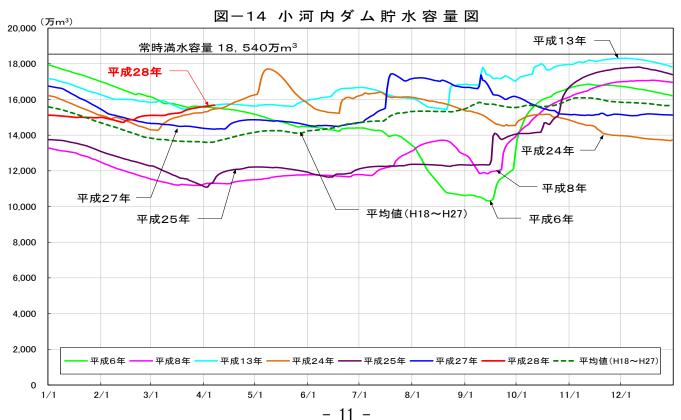


表-9 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量(平成28年4月6日まで)

単位 : (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成 27 年	61	24	59	95	56	165	404	138	325	27	142	39	1, 535	
平均値 T14-H27	44	57	90	111	123	182	212	246	252	170	77	45	1, 609	
平成28年	73	75	76	14										
平均値に対する割合(%)	165	132	84	13										

(2) 小河内ダムの貯水状況

4月7日7時現在の貯水量は、1億5, 680万m3となっています。(図-14)



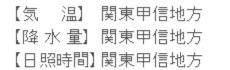
2. 今後の見通し

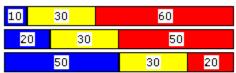
(1) 見通し

平成28年4月7日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(4月9日から5月8日までの天候見通し)によると、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少なく、向こう1ヶ月の降水量は「多い」確率50%となっています。また、3月25日気象庁発表の3か月予報(4月から6月までの天候見通し)によると、4月の天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は「平年並」または「多い」確率ともに40%となっています。5月の天気は数日の周期で変わり、降水量は「平年並」の確率が40%となっており、6月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、降水量は「多い」確率が40%となっています。

なお、2月24日気象庁発表の暖候期予報(6月から8月までの天候の見通し)によると、6月から7月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、その後は平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は「平年並」または「多い」確率ともに40%となっています。

1か月予報(平成28年4月7日発表)





凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

3か月予報(平成28年3月25日発表)

【降水量】

[関東甲信地方]



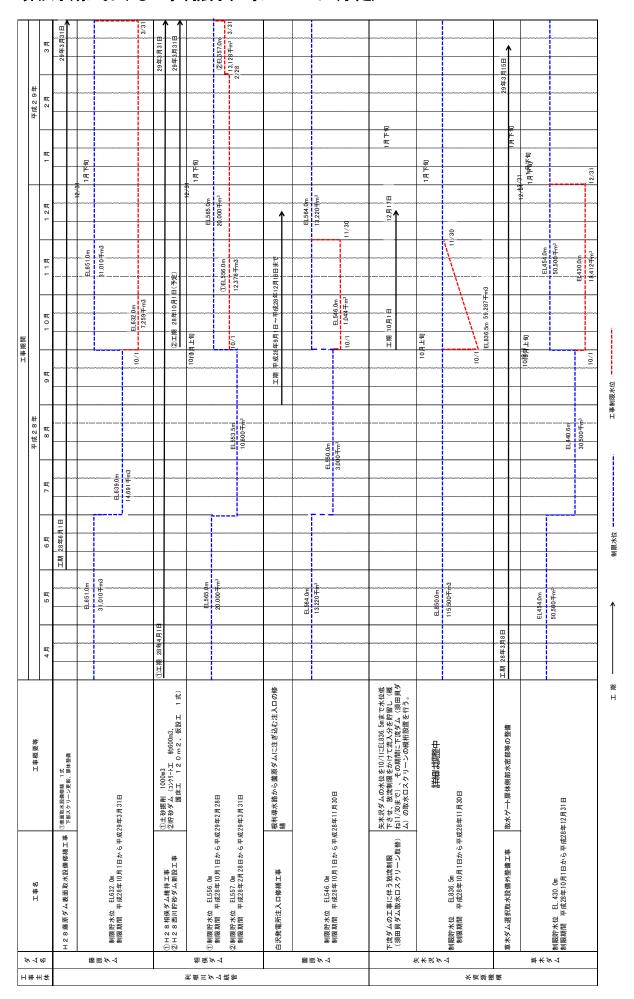
凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

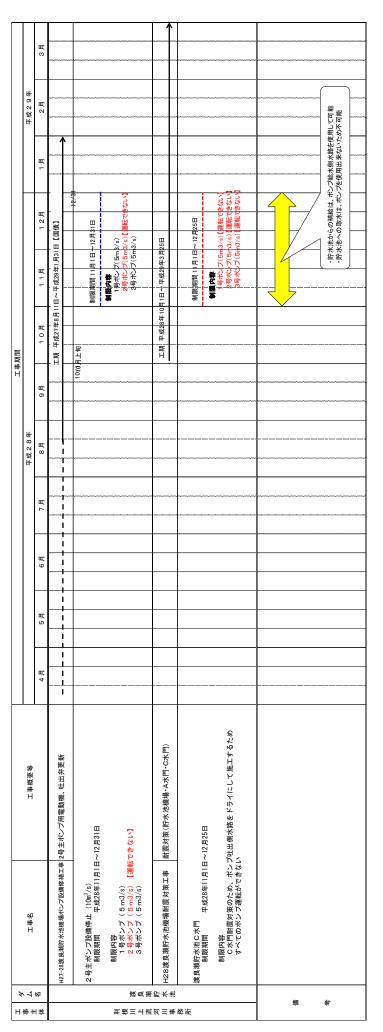
暖候期予報(平成28年2月24日発表)

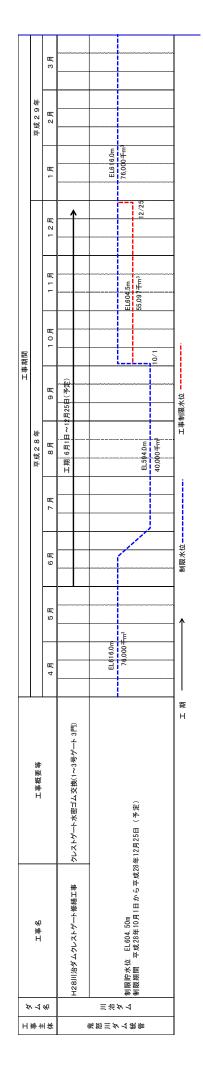
〈夏(6月~8月)の気温、降水量の各階級の確率(%)〉

凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

3. 非洪水期における工事制限水位等について(予定)







関東地方の主要な河川と水資源開発施設

